

受講番号 19021 学校名 高知追手前高等学校 氏名 上田 裕子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生理系 生徒数 31 名
科目名 Writing 単位数(授業時数) 2 時間 使用教科書名 英作文のストラテジー 入試必携英作文

クラスの様子・特徴

明るく元気な生徒の多いクラスである。4月当初は比較のおとなしい雰囲気であったが、徐々に打ち解け始め、疑問点を感じた時には活発に質問が出るようになった。しかしながら、英語に対しては苦手意識を持っている生徒が多く、意欲はあまり感じられない。

問題の確定

単語や文法の基本的な事項が弱いという問題点があげられる。

予備調査

A 授業の観察

全体的には明るく活発である。しかしながら、予習は不十分であり、小テストのでも個人差がある。英語に対しての意欲も、全体で頑張るという感じではなく、個人によって差がある。

B 生徒による授業評価

・授業に対しては、予習が不十分で授業内で理解している。
・英語に対しての苦手意識がある。「頑張っているのに成績が伸びない」や、「英語は苦手、でも頑張りたい」という声がある。

C 学力データ

11月進研模試 学年偏差値 55.1
A講座 56.4 B講座 57.2
C講座 52.2 担当講座 52.6

リサーチ・クエスチョン

英作文において、基本的なパターンを身につけて、それをどのようにすればまとまった英作文が書けるようになるか。

仮説・実践・検証

仮説1

⇒

実践1

⇒

検証1

いま授業で行っているテキストの英文をしっかりと音読練習(ひいては音読筆写)をすることにより、基本文と語彙の定着を高め、書く力が定着するのではないか。

授業の終わりに、その時間内のポイントを説明した後、音読の時間を取るようにした。音読ができれば、なお音読筆写もさせた。

重要構文やポイントを説明するのに手間取り、なかなか音読の時間まで取ることが難しかった。しかしながら、音読をしなければ、「音読がしたい」という声があり、音読の重要性は感じているようである。

仮説2

⇒

実践2

⇒

検証2

生徒が英文を作るうえで、間違いやすいのは語順、文法、語彙などが考えられる。これらを意識させることを習慣化すれば、書く自信につながるのではないか。

生徒が英文を作るときに、日本語での意味をしっかりと考えさせる。そして、どんな構文を使うか、どんな単語を使えばいいかを考えさせ、主語は？動詞は？目的語は？など文型に意識させながら書かせる。また、その意識付けを習慣化させる。

最初の頃は、文型や問題文の解釈もあまり意識していないところが見られたが、徐々にそういった点について考えながら丁寧に英文を作ろうとする生徒が見られるようになった。

仮説3

⇒

実践3

⇒

検証3

毎回、授業の始めに行っている小テストをうまく活用すれば、語彙の定着につながるのではないか。

毎回、授業の始めに行っている小テストの英作文の出題を生徒が学習している英作文とテーマやポイントが近いものを選べる時には選んで、関連付けて覚えさせる。小テストの出題の英文は生徒は既に習った英文なので定着を図る。

毎回ポイントやテーマが近い英文を選ぶわけではなかったで、生徒のほうも現在学習している英文と小テストの英文とが関連しているという意識が少し低く、正解率もまちまちになってしまった。

研究の成果

4月の頃と比べると、日本文での解釈、文法、構文などを意識して書くようになる生徒が増えたように見られた点は良かったと言えよう。しかし、まだ自分の知っている構文や単語、文法などうまくリンクができなくて、書けない生徒も多い。今後もこの意識付けは続けていきたい。また、英語を書くことから英語を聞くことや話すことに関連づけた活動についても考えたい。

今後の授業改善の課題

11月の模試の結果が出た。設問別の得点率において、表現力が最も点数が低く26.3点であり、課題を残した格好になった。まだまだ生徒に書く力が定着したと言える状況ではない。基礎的なことが不十分な生徒も多いので、中学校時に学習した基礎構文などをうまく取り入れて基礎固めを確実にさせたい。また、応用の力を身につけるために自由英作文などにも挑戦させたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-873-6141

電子メール